日本文学史概論（古典）　　中村　文

授業概要

日本人が日本語を用いてどのような作品世界を作り上げてきたのかを見渡すと同時に、各ジャンルの代表的な作品の一部を実際に講読して、それぞれの文学としての特色を理解し、面白さを体感してもらう。15 回という授業回数の制約上、取り扱う対象は古代から中世までであるが、日本の文学史をほぼ時代の流れに沿ってたどっていく。それぞれのジャンルや作品が産み出される背景となった時代状況にも触れるので、日本史にも関心を持ってほしい。

授業計画

第１回	ガイダンス	〈古典の第一歩〉	『万葉集』
第２回	古代文学史①	〈神話と歴史〉	『古事記』『日本書紀』
第３回	古代文学史②	〈漢詩文の全盛時代〉	『懐風藻』その他
第４回	和歌文学の系譜①	〈日本独自の文化を探して〉	『古今集』から『拾遺集』まで
第５回	女房たちの文学①	〈日記の遍歴〉	『土佐日記』
第６回	女房たちの文学②	〈仕事をする女のまなざし〉	『枕草子』『紫式部日記』
第７回	物語文学の流れ①	〈物語の祖先〉	『竹取物語』『伊勢物語』
第８回	物語文学の流れ②	〈物語の到達点〉	『源氏物語』
第９回	物語文学の流れ③	〈すれっからしの文学〉	『堤中納言物語』
第10回	歴史を記す文学①	〈摂関体制の頂点〉	『大鏡』
第11回	歴史を記す文学②	〈歴史と物語の間〉	『栄花物語』
第12回	軍記物語①	〈時代の転換点〉	『平家物語』①
第13回	軍記物語②	〈合戦の記録と鎮魂〉	『平家物語』②
第14回	和歌文学の系譜②	〈王朝文化の極北〉	『新古今集』
第15回	説話文学	〈仏教との接点〉	『今昔物語集』『宇治拾遺物語』
第16回	定期試験		

到達目標

・古代から中世にかけての日本歴史の流れを、大まかに思い描くことができる。
・日本の古典語で書かれた作品を読んで、時代との結びつきや作品の性格を理解できる。

履修上の注意

授業中、履修者にしばしば質問をする。質問されたら必ず答えること。
古典文学についての知識は必要ないが、授業で取り上げている時代や作品の内容については関心を持つこと。
定期試験の他に、授業時に 30～40 分程度の小テストを実施する（２回）。

予習復習

予習は必要ないが、ノートをきちんと取って復習しないと、小テストをクリアできません。

評価方法

定期試験（65%）と小テスト（35%）の点数を総合して判定する。

テキスト

使用しない。毎回、Ａ３サイズのプリントを配布する。Ａ４のファイルを用意すること。